

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

日本フィルのトロンボーン奏者の岸良開城が所属する「トロンボーンカルテット シパング」が10月22日～25日の4日間にわたり南相馬に行きました。シパングは吉川武典(N響)、桑田晃(読響)、門脇賀智志(新日本フィル)、岸良開城(日本フィル)の4つのオーケストラのトロンボーン奏者からなるアンサンブルで、15年にわたって演奏活動を続け、CDも8枚リリースしており、そのユニークな活動は金管アンサンブルの世界ではとても有名です。震災後、世界中のトロンボーン奏者がリレーで演奏した「ア・ソング・フォー・ジャパン」にも参加しています。

<7口の指導受け、吹奏楽コンクール全国大会で「原一中」は見事「銅賞」を受賞>

初日は、吹奏楽コンクール東北大会で金賞を獲得し、全国大会を26日に控えた原町第一中学校に行きました。震災後生徒数が激減し6割になったため、吹奏楽部員も震災後は半分になってしまいました。今年の4月に指導に行ったときは34名だった部員は、新入生獲得運動の末、一年生含めてやっと45人に増えていました。全員レギュラー、補欠なし。

「日本一のシパングが来てくれる」と期待に胸ふくらませて緊張した面持ちの部員たちが待っていました。全国大会直前の最後のアンサンブルの仕上げに向け、シパングのみなさんのコメントに全員が集中します。プレスの取り方、会場の広がりイメージすること、約1時間にわたる細部の指導でアンサンブルがグンと変化しました。



後半はシパングの演奏、課題曲のR・シュトラウス「アルプス交響曲」のオーケストラバージョンのなかでのトロンボーン4本のコーラルを披露しました。美しい響きに、曲全体をイメージする素晴らしい体験。その4日後、名古屋で開かれた全国大会で、「原一中」は「銅賞」を獲得し、新聞やテレビで「被災地の希望」と称賛されました。



南相馬は福島第1原発から20キロ圏内の「帰宅困難地域」の小高地区と30キロまでの「緊急時避難準備区域」の原町地区と放射

能の影響がないと言われている鹿島地区の3つに分断されています。おまけに沿岸は津波でおおきな被害を受けています。

今回は4つの小学校でコンサートを行いました。津波被害の大きかった地域の高平小学校、原町地区の第三、第二小学校、そして鹿島地区に避難している小高地区の3つの小学校。自分の生まれ育った故郷や学校を失い、友達や家族ともバラバラになってしまった子供たちに、音楽で輝く時間や希望を持ってほしい。シパングのみなさんは、アンサンブルをつくる喜びに満ちています。音楽は楽しく、心地良いものだ、というメッセージが子どもたちの身体に染み込んだに違いないと思います。



高平小 (10月23日)

<震災から2年半、仮設に住む親のストレスが子供に伝わっている現状、もともと吹奏楽が盛んだった福島の小学校に、再び金管の豊かな響きを取り戻したい>

24日の午前中は原町第三小学校。体育館に集まった250人の児童が聴きました。この学校は全員が原町第一中に進学するので、「みんな! 中学にいったら吹奏楽部に入ろう!」と呼びかけました。プログラムはクラーク「猫の組曲」や「日本の四季」など。リーダーの吉川さんの巧みなお話とトロンボーン4本の心地よいサウンドに引き寄せられます。

午後は小高地区の3つの小学校が合同で仮設の校舎に入っている鹿島中学に。小高地区は「帰宅困難地域」。家も学校も住んではいけない地域です。金房小学校・福浦小学校・鳩原小学校の三校が合同で、3年から6年までで60名。震災後、楽器に触れる機会が失われ、楽器を見るのも初めて、聴くのも初めて。リーダーの吉川さんがトロンボーンに触らせて音の振動を体験させてくれました。



原町第三小 (10月23日)

近くで聴く生の演奏、キラキラした楽器を奏でる素敵な大人たちに子どもたちは大興奮。ピリブも元気に歌いました。

この学校の子供たちは全員が借り上げ住宅か仮設住宅から通っています。学校にいる間の子供にも屈託はないが、被災から2年半を過ぎた親のストレスが子どもに伝わってきているという校長先生の話しが胸に突き刺さります。

今回、4つの小学校と1つの中学校の訪問で、震災で子どもたちの音楽へ触れる機会が中断された現実が分かりました。



金房・福浦・鳩原小 (10月24日)



岸良開城